



請願第6号

2018年6月7日

二本松市議会議長 野地久夫様

請願団体

新日本婦人の会二本松支部
支部長 遠藤絹子



紹介議員 平 敏子

リアルタイム線量測定システムを撤去しないことを求める

意見書提出に関する請願書について

原子力規制委員会は3月、県内に設置されている約3千台のリアルタイム線量測定システムについて東京電力福島第一原発事故で避難指示が出た12市町村以外にある約2400台を2021年3月までに順次撤去する方針を示しました。

しかし、原発の廃炉までは30年～40年かかるといわれており、また、除染で除去した土壌の仮置場から中間貯蔵施設への輸送が本格化するのはいずれからです。

市民のみなさんから、「空間線量の正確な情報を自分の目で確認できる唯一のものだから撤去しないでほしい」「最近地震も多く、事故を起こした原発が廃炉になるまでは何が起きるかわからない。撤去しないでほしい」、モニタリングの継続を望む意見が数多く届いています。

原子力規制委員会は、リアルタイム線量測定システムを撤去しても他の方法でモニタリングしているといいます。しかし、それらは日常的に目にするものではなく、原発事故を体験した私たちにとって、放射線量を目で確認できるリアルタイム線量測定システムは特別の存在です。また、原発事故から7年が経過しましたが、健康への影響が心配される放射線量に関して、国・東電と住民が情報を共有し、対策を進め、リスク低減に取り組む「リスクコミュニケーション」は引き続き重要です。

以上のことから、貴議会から政府、関係機関に提出いただきたくお願いいたします。

請願事項

1、リアルタイム線量測定システムの撤去はおこなわないこと



リアルタイム線量測定システムを撤去しないことを求める意見書(案)

原子力規制委員会は3月、県内に設置されている約3千台のリアルタイム線量測定システムについて東京電力福島第一原発事故で避難指示が出た12市町村以外にある約2400台を2021年3月までに順次撤去する方針を示した。

しかし、原発の廃炉までは30年～40年かかるといわれており、また、除染で除去した除去土壌の仮置場から中間貯蔵施設への輸送が本格化するのはいずれからである。

市民のみなさんから、「空間線量の正確な情報を自分の目で確認できる唯一のものだから撤去しないでほしい」「最近では地震も多く、事故を起こした原発が廃炉になるまでは何が起こるか分からない。撤去しないでほしい」、モニタリングの継続を望む意見が数多く届いている。

原子力規制委員会は、リアルタイム線量測定システムを撤去しても他の方法でモニタリングしているといっている。しかし、それらは日常的に目にするものではなく、原発事故を体験した私たちにとって、放射線量を目で確認できるリアルタイム線量測定システムは特別の存在である。また、原発事故から7年が経過しましたが、健康への影響が心配される放射線量に関して、国・東電と住民が情報を共有し、対策を進め、リスク低減に取り組む「リスクコミュニケーション」は引き続き重要である。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

1、リアルタイム線量測定システムの撤去はおこなわないこと

2018年 月

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣